

地 歴

「 日本史 B 」	単 位 数	4 単 位
	学科・学年・学級	普通科 第3学年 1～5組

1 学習の到達目標等

学 習 の 到 達 目 標	1. 原始・古代から近現代までの日本史を通史として、政治、経済、社会、文化の面から系統だてて学習する。 2. 日本史を広く国際的視野で、世界の諸地域との関連で学習する。 3. 日本史を単なる知識の収集とするのではなく、歴史上の事実関係などを考え、時代を創造的に描き、自分なりの見方、考え方ができるきっかけとして学習する。
使用教科書・副教材等	「高校日本史 B」(実教出版) 他資料集

1 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学 期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	備 考（学習活の特記事項，他教科・総合的な学習の時間・特別活等との関連など）	考 査 範 囲
第 1 学 期	文化と国家との形成 （１）旧石器，縄文，弥生時代の社会と文化	4	・日本という地域にいつから人々が住み，どのような文化を形成したか，また，どのように社会と文化が変化したかを学習する。	・世界史との関連を重視する。	第1学期中間考査
	古代国家の確立 （１）古代の政治と文化 （２）律令体制の形成・確立 （３）律令体制の再建と崩壊 （４）摂関政治と国風文化	5	・日本での古代国家の確立は，律令体制として完成し，展開することを学習する。		
	中世社会の成立 （１）荘園公領制と武士 （２）院政と平氏政権 （３）鎌倉幕府の成立 （４）執権政治の展開 （５）鎌倉時代の社会と文化	6	・律令体制の崩壊を，荘園公領制や武士の出現，発展と関連づけて考察し，武家政権の成立と展開から，中世社会について学習する。		第1学期期末
		7			
	【課題・提出物等】 ・授業で使用したプリント、ワークシート ・ノート				
【第1学期の評価方法】 定期考査（中間・期末）を80％、課題・提出物などの平常点を20％とする。					

第 2 学 期	中世社会の展開 (1) 鎌倉幕府の滅亡と南北朝 (2) 室町幕府と外交 (3) 室町時代の社会と文化 (4) 戦国大名と領国支配	9	・ 中世社会の展開を政治、経済、社会の変化から考察し、東アジア世界との関連という世界史の視点に立って学習する。	・ 世界史との関連を重視する。 ・ 中世文書などの文献史料や中世考古学の資料を活用する。	第2学期中間考査
	統一政権の成立 (1) ヨーロッパ世界との接触 (2) 織豊政権 (3) 江戸幕府の成立と幕藩体制	10	・ 近世社会とは、どのような社会であったかを戦国期からのヨーロッパ世界との接触、織豊政権の歴史的意義、幕藩体制下での封建制度や外交、政治、経済、文化などの点から学習する。		
	幕藩体制の展開 (1) 近世社会の政治・経済と外交 (2) 近世社会の文化 (3) 欧米列強の日本接近	11		・ 世界史との関連を重視する。 ・ 近世の文書史料ばかりでなく、近世考古学の資料も活用する。	第2学期期
		12			
	【課題・提出物等】				

	・授業で使用したプリント、ワークシート ・ノート	44 千葉県立市川西高等学校
	【第2学期の評価方法】 定期考査（中間・期末）を80％、課題・提出物などの平常点を20％とする。	

第 3 学 期	大日本帝国の誕生	1	・幕藩体制の解体によって、日本の近代国家が成立することや、日本の近現代の社会や文化について学習する。 ・戦後からの現代史について学習する。	・世界史、政治・経済との関連を重視する。	学 年 末 考 査
	日本国憲法と現代の世界				
	【課題・提出物等】 ・授業で使用したプリント、ワークシート ・ノート				
	【第3学期の評価方法】 定期考査（期末）を80％、課題・提出物などの平常点を20％とする。				

【年間の学習状況の評価方法】 1・2・3学期の評価を平均して評価する。

確かな学力を身に付けるのアドバイス	・「歴史は丸暗記」ということではなく、歴史に対して、興味・関心を持って歴史事象について「なぜだろう」、「原因や結果は何か」などと、事象や事柄を関連づけて、自ら考え、総合的に判断することや、客観的に観ることができることが大切である。
授業を受けるに当たって守ってほしい事項	・授業は講義が中心となるので、まずは講義をしっかり聞いてほしい。 ・ノートは板書をただ写すというのではなく、各自が考え、理解、納得しながら取るという姿勢を心掛け、復習、反復の際に活用してほしい。 ・課題提出は、必ず提出することを心掛けてください。

(2) 評価の観点、内容及び評価方法

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	・授業（講義）をしっかり聞いているか。 ・授業中の発問に対して、積極的に発言しているか。	・課題プリント ・ノート
思考・判断	・客観的な分析に基づいて、歴史を総合的に判断できるか。	・定期考査 ・課題プリント
資料活用 of 技能・表現	・年表・図表・史料・資料から歴史を観ることができるか	・定期考査 ・課題プリント
知識・理解	・知識が定着しているか。 ・歴史事象、事柄を関連づけられるか。	・定期考査 ・課題プリント ・ノート

(3) 担当者からのメッセージ

日本の歴史を学習することから、世界の諸地域との関連といった国際的な視点を身につけ、日本社会を客観的な分析から時間的に系統立てて考え、これからの時代、未来社会を創造的に描き、広い視野から自分の見方・考え方ができるようにします。
--